

アクティビティ STEP1-B2 ワールドマップ ★★★★★

実施時間：45分～90分

使用教材：アクティビティブック P.9 ガイドブック P.18

形式：グループワーク

準備物：約6mのロープ×グループ分、データ用チップ6種類×グループ分、

データ記入用シート×グループ分、シート記入用マーカー×グループ分、

正解・解説用データ（配布する場合は印刷）

<活動内容>

世界を5つの大陸にわけ、大陸毎の人口、オリンピックメダル獲得数、GDP等の数値の違いを予測し、実際と比較する。

大陸毎に数値が違う理由や予想と実際の数値に差が出た要因等を振り返り、世界の貧困問題を視覚的に捉える。

<目標>

- ロープで5大陸の略図を作れている
- 統計データ記入表の各指標の予想を、データチップで各大陸へ配置できている
- 統計データ記入表の予想欄が3列以上記入されている
- 各指標において、予想した数値と実際の数値の違いに対し、感想や気づきを述べられている

<児童・生徒の状態目標>

- 生まれた場所によって不平等や格差が起きていることを理解し、問題意識が高まっている
- 固定観念や先入観等の影響で物の見方が偏ることを体感している

<授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 ロープによる 世界地図作成 ワーク2分 確認2分	・今回の授業内容を説明し、ロープで世界地図を作ってもらおう。 <声掛けの例> 「今日は世界の大陸別の数字の違いを考えます。最初に各グループに配ったロープで世界地図を作ってください。」	・白地図をA4以上で印刷し、配布することで代替可。 ・作った地図で、北米・南米・アジア・ヨーロッパ・アフリカの5大陸がどこであるか確認する。
数値予測 (データチップ配置) ワーク 10～20分	・統計データ記入表の各指標を予想する。 ・各大陸にデータチップを配置し、統計データ記入表の予想欄に配置したデータチップの総計を記入させる。 ・指標毎に制限時間(2～3分程度)を設ける。 <声掛けの例> 「それでは、これから幾つか数を予想してもらいます。まずは、各大陸に世界の人口が何%ずつ分布しているか2分で予想してみましょう。予想したら、その数を世界地図の各大陸に、 ～色のデータチップを置いて表してください。」	・数値予測は必ず人口から始める。 ・データチップの単位は%である。 ・データチップは指標毎に別の色を使う。混同しないよう注意させるようにする。

	データチップを置いたら、統計データ記入表の「予想」の欄に同じ数字を書いてください。」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間や状況に応じ、予測する指標は、3～6種類で設定する。 (必ず人口を含むこと) ・全ての指標の予測終了後、調整の時間を設けて良い。
<p>正解発表</p> <p>説明 6分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正解を発表し、統計データ記入表の「実際」の欄に、正しい数値を記入させる。 <p><声掛けの例></p> <p>「それでは正解を発表します。人口は、北米が8%、南米が6%(以下略)」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正解が記入されたシートを印刷し、配布しても良い。 ・正解は、児童、生徒がしっかり聞き取れる声量、速さで伝えるようにする。
<p>振り返り</p> <p>ディスカッション</p> <p>15～25分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想と実際の数字の違いについて、どの様に感じたか、振り返りを行う。 <p><振り返り用質問例></p> <p>「このワークをやってみて、今どんな気持ちや想いですか?理由も含めて教えてください。」</p> <p>「驚いたことはありましたか?」</p> <p>「データに規則や傾向はありますか?」</p> <p>「なぜ GDP と消費食物のデータが、ほぼ同じ数字になっているのでしょうか?」</p> <p>「どの大陸の人が最も満足していると思いますか?理由も含めて教えてください。」</p> <p>「世界は最初からこの数値分布だったと思いますか?」</p> <p>「こうした数値分布になっているのは何故だと思いますか?」</p> <p>「大陸毎の数値の違いを改善するには、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことが必要だと思いますか? ・私達にはどんなことが出来ると思いますか? ・個人的に出来る事は何かありますか?なるべく現実的、具体的に教えてください。」 <p>「近い数字、大きく違う数字はありましたか?理由も含めて教えてください。」</p> 	
<p>解説</p> <p>15～30分</p>	スライドを使い、データの解説を行っていく。	生徒の自学として促すなどもよい。